2 窯垣の小径

不要になった窯道具を積み上げてつくられた「窯垣」が続く、全長400mほどの細く曲がりくねった道。かつては窯業生産で栄えた洞地区のメインストリートであり、窯場で働く人々が陶磁器や燃料を担いで往来した汗の道でもありました。現在でも窯屋の邸宅が建ち並ぶほか、周辺には、窯元・ギャラリーがあり、せとものの まちの風情が楽しめます。毎年秋には「窯垣の小径まつり」が開催されます。

3 窯垣の小径ギャラリー

江戸時代に建てられた窯元の邸宅を利用したギャラリー。主に洞町で活動する若手作家の作品が展示されています。四季にあわせた企画展も開催され、洞の歴史が詰まった建物で昔の空気に包まれて、現代の作品を観賞できるスポットです。

開館時間　午前10時～午後4時
開 館 日　企画展開催時の土日祝のみ
入 館 料　無料

4 窯垣の小径資料館

陶磁器生産を行っていた窯元、旧寺田家の邸宅を平成7(1995)年に改修した建物群。敷地内には、母屋、倉庫、離れ(客間用)があり、母屋は明治2(1869)年には建てられたことが確認されており、その後倉庫が、大正時代には離れが建てられました。現在は内部に資料館や休憩所を備えており、中でも日本の近代量産タイル第一号といわれる「本業タイル」で装飾された浴室やトイレは必見です。

開館時間　午前10時～午後3時
休 館 日　毎週水曜日、年末年始　入 館 料　無料

5 白龍大明神

その昔、洞で「エンゴロ屋」をしていた人が病気になり、なかなか治らないため占師にみてもらったところ、「この地で亡くなった落武者のたたり」といわれました。その化身が白竜であることから石碑をつくり「白竜さん」としてお祀りしました。

昭和37(1962)年、古瀬戸小学校へと続く道の工事に伴い、今の場所に石垣を積んで山の神様、天神様と一緒に祀られました。現在では、白竜さんに卵を供えて子どもが授かるようにお参りする人もいるようです。

6 王子窯

窯場には、現在は使われていませんが非常に規模の大きい重油窯の姿を今も見ることができます。また、近代において洞のみならず瀬戸の風景を特徴づけた重油窯の煙突が今も残されており、かつて窯業生産で活況を呈した当時の姿を偲ぶことができます。その他、敷地内には明治33(1900)年に建築された「モロ」と呼ばれる工房や、陶房兼ギャラリーが高台にあり、そこから洞町の景色を眺めることができます。

ギャラリー営業時間　午前9時30分～午後4時　休業日　毎週日曜日

7 弥蔵観音・弥蔵弘法

弥蔵観音の由来は、天保2(1831)年、ある女性が「できもの」で苦しみ亡くなる際、「自分を祀ってくれたらきっと治す」と言い残し、観音像を祀ったことに始まります。その右側にある弥蔵弘法は、慶応3(1867)年に東洞町の男性が28歳で亡くなる際、遺言で「腹痛に苦しむ人を助けたい」と言ったことから、弥蔵観音と並び祀られました。元々、今の場所から300mほど東の地点にありましたが、昭和36(1961)年に現在の場所に移されました。

8 窯跡の杜

「窯跡の杜」には、かつて、江戸時代末期から戦後まで操業した連房式登窯が存在していました。平成25(2013)年の山開きに合わせて発掘調査が行われ、窯の位置や周辺の工房跡の状況などが明らかにされています。現在、それらの成果をもとに整備され、窯跡の位置や規模がわかるようにサインが置かれ、周辺には工房跡が存在したことを示す地形もみることができます。一つの杜の中で近世から近代に至る瀬戸窯業の盛況ぶりを感じることが出来る貴重な文化・産業遺産です。

9 洞本業窯(市指定文化財)

かつて窯跡の杜内の奥洞窯(東洞A窯跡)で操業した連房式登窯を、昭和24(1949)年に部分的に移築したものです。昭和54(1979)年までは、実際にこの窯で生産が行われていましたが、現在は使用されていません。しかしながら、瀬戸でこのように登窯本体が残されている例はほとんどなく、極めて貴重です。